

令和6年「いわて復興ウォッチャー調査」 結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 151名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法（郵送による発送、返信用封筒による返送）

(3) 調査対象時期

令和6年1月

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感（被災者の生活の回復度及び直近1年間の進捗状況）

問2 地域経済の回復に対する実感（地域経済の回復度及び直近1年間の進捗状況）

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

（災害に強い安全なまちづくりの達成度及び直近1年間の進捗状況）

(5) 回収結果

有効回収率 83.4%（126名／151名） <前回 80.8%（令和5年1月調査）>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	86	68.3%
女性	40	31.7%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	43	34.1%
沿岸南部	83	65.9%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	4	3.2%
40歳代	26	20.6%
50歳代	55	43.7%
60歳以上	41	32.5%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	66	52.4%
被災なし	56	44.4%
不明	4	3.2%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連（応急仮設住宅の自治会（入居当時）、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など）
45名（35.7%）
- ・ 教育・福祉施設関連（小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など）
37名（29.4%）
- ・ 産業・経済・雇用関連（漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など）
44名（34.9%）

■参考■

○「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。

「進捗状況」とは、直近1年間の進み具合についてお尋ねしています。

○沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、

沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析に当たっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

※ 「進んでいない」「あまり進んでいない」等の合計値は、小数点第2位以下を切り捨てた上で合計しています。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が60.8%と、前回(57.0%)を3.8ポイント上回った。一方、「回復した」「やや回復した」の合計は84.0%と、前回(86.8%)を2.8ポイント下回った。

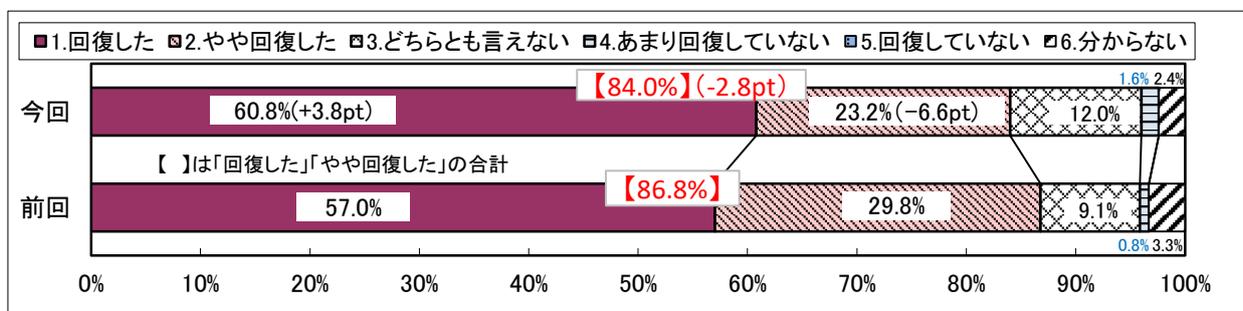
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部は58.1%と、前回(61.9%)を下回った。沿岸南部は62.2%と、前回(54.4%)を上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で81.4%、沿岸南部で85.4%とそれぞれ前回(北部83.3%、南部88.6%)を下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は4.0ポイントと、前回(5.3ポイント)から縮小した。

○直近1年の進捗状況を見ると、「進んでいる」が36.3%と、前回(35.8%)を0.5ポイント上回った。また、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計は58.1%と前回(57.5%)を0.6ポイント上回った。

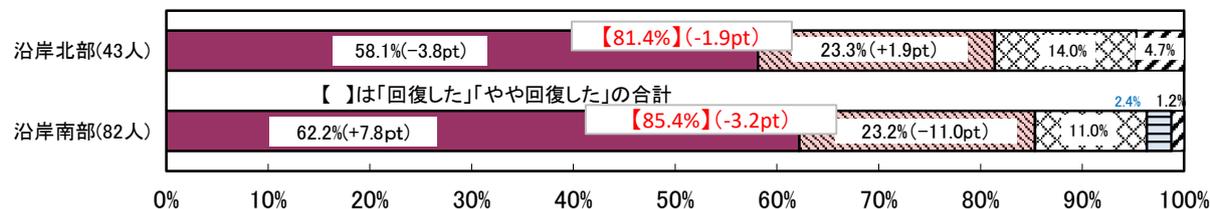
住宅の再建が進むとともに、三陸沿岸道路等が開通されたことなどにより、利便性が向上し、生活が落ち着いてきたとする声がある一方で、地域の少子高齢化や人口減少への対策が必要であるという声があった。また、コミュニティの形成を課題として挙げる声があった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

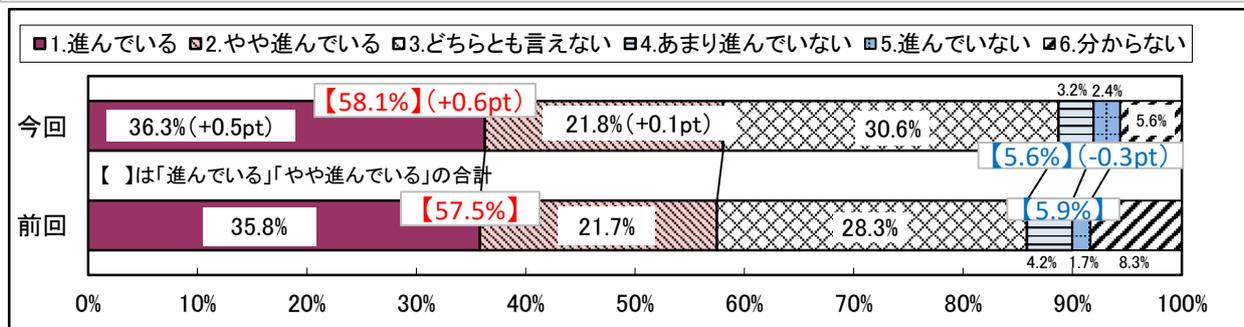


地域別

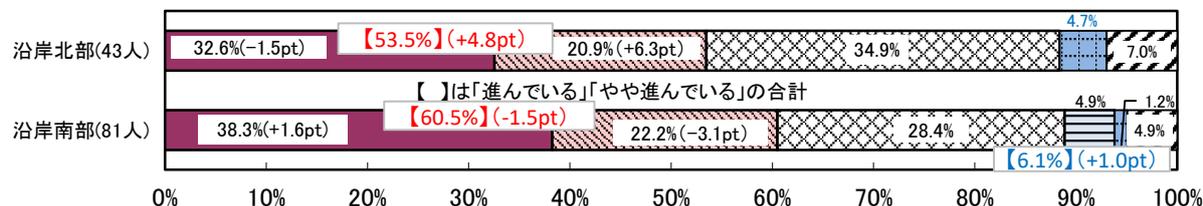


② 直近1年間(おおむねR5年1月からR5年12月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(1年間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆公営住宅等に入居、又ボツボツ再建も見られ、各自落ち付いた暮らしを取り戻した感じが見受けられる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆仮設住宅もなくなり、新しい住宅もほぼ建っているように見える。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部) ◆三陸沿岸道路の開通により利便性が向上した一方で、市内への回遊が少ないと感じる。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部) ◆防潮堤工事や三陸沿岸道路など、生活が安定しているように感じる。震災前よりも大幅に利便性が高まっているが、人口の流出や高齢化が一番の課題だと思う。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆三陸沿岸道路もあり、人々や物流も活発になり、特に日曜日等の道の駅での人は多く感じられる。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部) ◆住宅・インフラ等、震災後ハード面は回復したと思う。被災地に住む人たちの生活も安定してきていると感じる。その分、別の課題(少子高齢化、空き地問題等)が顕著になってきており、市全体として考えていく時期ではないだろうか。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆東日本大震災の津波で被災したハード面はほぼ復旧され、被災地前より環境が良くなったと思う。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆日常生活はほぼ戻り、震災の話題の話が減ってきた。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部) ◆被災者の住宅再建、雇用等、落ち着いたように思われる。商業施設も整い、生活も落ち着いてきていると思う。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆住宅の暮らしの再建に向けた復旧復興対策は概ね完了していることから、今後はこれまで以上に住民が安心して暮らせる生活環境の向上や地域コミュニティの維持、形成を図ることが重要となる。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部) ◆被災者は家を再建し、自分たちで自立した生活を行っている。さらに、仕事にも就き、少しずつ安定した生活を送っているように感じる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆復興道路、住宅、防潮堤などが完成している。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸北部) ◆住宅、道路など生活環境は回復している。これからは、雇用の創出の面で企業誘致をして、人口流出しない政策が必要だと思う。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆震災後13年が経過し、被災者の生活については一段落したと感じる。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆震災後に回復した生活が、新型コロナウイルス感染症や物価高の影響で逆戻りした部分があるように感じる。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部) ◆進んでいる(回復された)方とそうでない方との差が広がっているように感じる。高齢者の割合やその方の気持ちの面などが要因として考えられる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆日常の生活については震災の影響はほぼなくなっているが、失われたコミュニティはどうしても回復は出来ないでいる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」が24.6%と、前回(18.6%)を6.0ポイント上回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計は48.4%と、前回(48.3%)を0.1ポイント上回った。

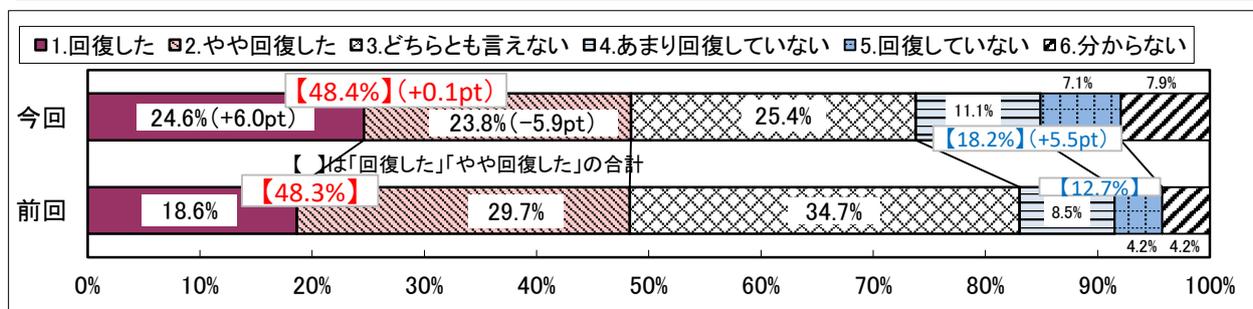
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で20.9%、沿岸南部は26.5%と、それぞれ前回(北部16.7%、南部19.7%)を上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で46.5%と、前回(45.3%)を上回った。沿岸南部は49.4%と、前回(50.0%)を下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の「回復した」「やや回復した」の合計差は2.9ポイントと、前回(4.7ポイント)から縮小した。

○直近1年の進捗状況を見ると、「進んだ」が15.3%と、前回(13.6%)を1.7ポイント上回った。また、「進んだ」「やや進んだ」の合計は36.3%と、前回(38.2%)を1.9ポイント下回った。

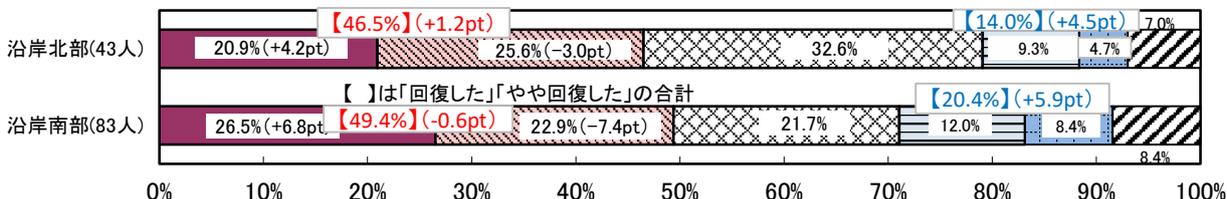
新型コロナウイルス感染症の影響が緩和され、イベント等が開催されるようになったことや、復興道路の全線開通により物流や人的交流が拡大したことなどから地域経済の回復が進んだとする声がある一方で、主要魚種の不漁、復興事業の完了に伴う公共工事の減少やエネルギー価格・物価高騰など、地域経済が回復しない要因を指摘する声があった。また、ALPS処理水の海洋放出による風評被害を心配する声があった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

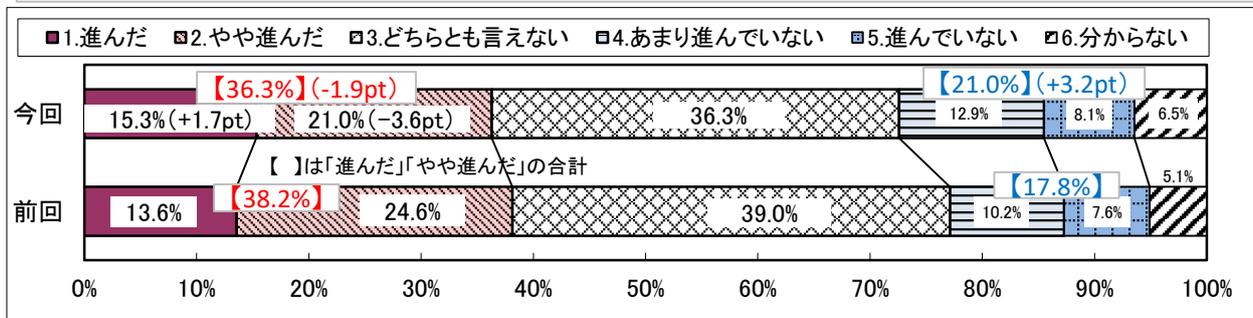


地域別

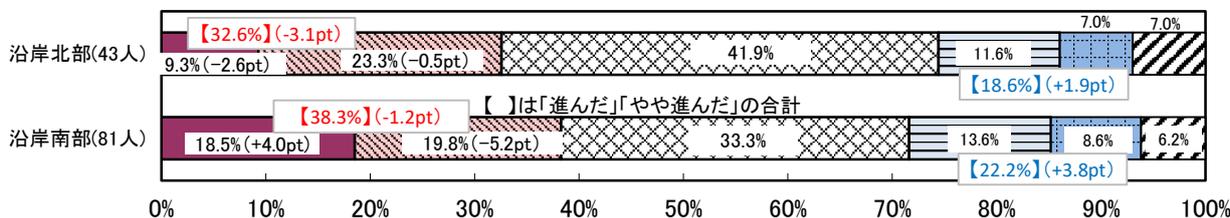


② 直近1年間(おおむねR5年1月からR5年12月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(1年間程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由</p>	<p>◆水産業では魚種の変化、不漁に資材と燃料の価格上昇で厳しいが、地域経済としては回復してきている。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆水田等が復旧し、新しい品種(銀河のしずくetc.)を取り込み、わずかであるが生産が高くなってきている。道路環境が改善され、良くなってきている。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆設問が「被災前と比べて」とあるが、全てを震災前と比べることが難しいと感じる(人口減少・基幹産業の変化等)。現在の状況において「回復した」と考えざるを得ないと思う。コロナが5類に移行後、様々な催しも開かれるようになり、経済が回ってきたように感じる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由</p>	<p>◆大型商業施設や周辺の飲食店等も増え、活気は出てきていると思う。また、イベント等もあり、中心部は賑わいを見せている。ただし、中心部から離れると過疎化、高齢化が進み、店舗等も少ない為、買い物、通院等不便な地域も見られる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆様々なイベントが開催されるようになり、人も集まるようになってきている。酷暑の夏だったため海水浴に来る人も多かったように思う。新しくキャンプ場も出来、にぎわってくるのではないかと。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆復興道路関連事業の完成により、物流や人的交流が活発になり地域経済にとっては良い方向に向いてきた。コロナ等感染症の影響が緩和され、人的・物的にも交流が回復したと報道されているが、この地まではその恩恵はほとんど見られない。逆に資材や燃料の高騰による影響の方が大きいと感じる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p> <p>◆全体としては、落ち着いた状況と感じられるが、建設業関係は低迷していると思われる。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆生産体制、基盤整備によりハード面は整ったものの、サンマなど主要魚種の不漁や急激な公共工事の減少、コロナ後も宴会の減少が続くなど要因は震災によるものではなくなっている。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆震災前と比較すると地域経済は一時緩やかに回復の兆しを見せたが、コロナの影響や資材、燃料、人件費等の高騰の流れを受けて、下降局面に移行している。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆新型コロナウイルスの影響が長引いているほか、燃料や資材等の原料価格の高止まりにより、地域経済の回復が心配される。慢性的な人手不足が深刻化する中、雇用賃金の上昇等事業者の経営環境は一層厳しさを増すものと思われる。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p> <p>◆復興需要や復旧工事での人口増で経済も活気があったが、現在はそれらが終息したことや、農・漁業等の不振、コロナウイルス感染拡大等で観光人口も激減、アフターコロナでのインバウンドも当地域には無い状態である。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆ここ数年の水産業はとても厳しい状況にあり、震災前とは比較できなくなっている。サケの不漁、ウニ・アワビの水揚げ減、ホタテのへい死、ワカメの病気等で漁師はとても大変な状況。震災前と比べてどうこうという感じではなくなっている。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p> <p>◆地域経済は落ちこんでいると思うが、震災の影響ではなくなっていると思う。(60歳以上、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆サンマ、サケ、スルメなどが不漁。建設業、飲食店などの閉店がある。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆物価高で地域経済に与える影響は大きいと思う。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p>
<p>「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<p>◆サンマ、サケの不漁により、漁業、水産加工業で成り立っている沿岸地域は大打撃を受けている。このままでは、水産業で生活している沿岸の経済は、深刻な状況になるのではと危惧している。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆原油の高騰により、ガソリンや漁業資材の値段が上がって生活が厳しい中、ALPS処理水の海洋放出の風評被害が心配だ。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」が38.9%と、前回(29.2%)を9.7ポイント上回った。また、「達成した」「やや達成した」の合計は79.4%と、前回(77.5%)を1.9ポイント上回った。

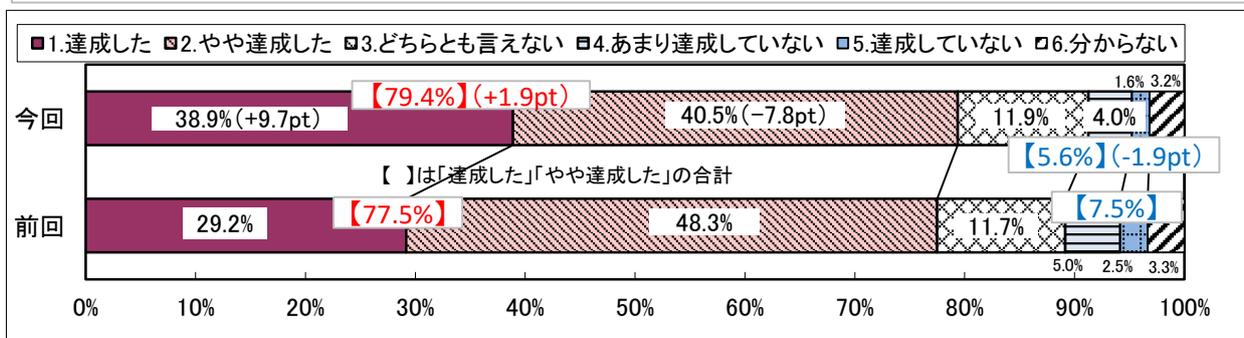
○地域別では、「達成した」が、沿岸北部で23.3%、沿岸南部が47.0%と、それぞれ前回(北部19.0%、南部34.6%)を上回った。「達成した」「やや達成した」の合計は、沿岸北部で72.1%、沿岸南部は83.1%と、それぞれ前回(北部69.0% 南部82.0%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は11.0ポイントと、前回(13.0ポイント)から縮小した。

○直近1年間の進捗状況を見ると、「進んでいる」が34.1%と、前回(26.1%)を8.0ポイント上回った。また、「進んでいる」「やや進んだ」の合計は69.9%と、前回(61.4%)を8.5ポイント上回った。

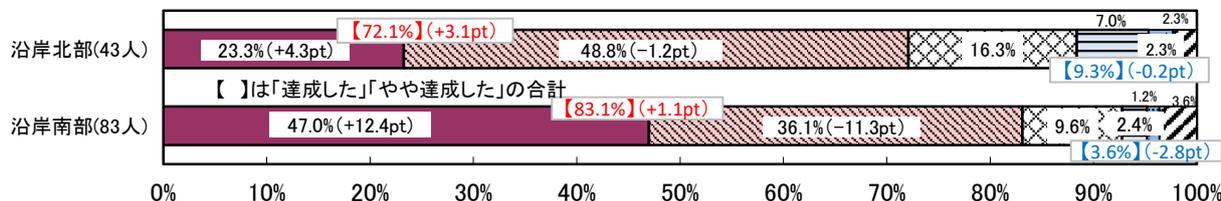
防潮堤や復興道路などハード整備やハザードマップの作成等により、災害に強い安全なまちづくりが進んだことを実感する声がある一方で、継続的な避難訓練の実施や要支援者の避難対策等、次に起こる災害に備えた対策を進めることの重要性を指摘する声があった。また、震災の風化による防災に対する意識の低下を心配する声があった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

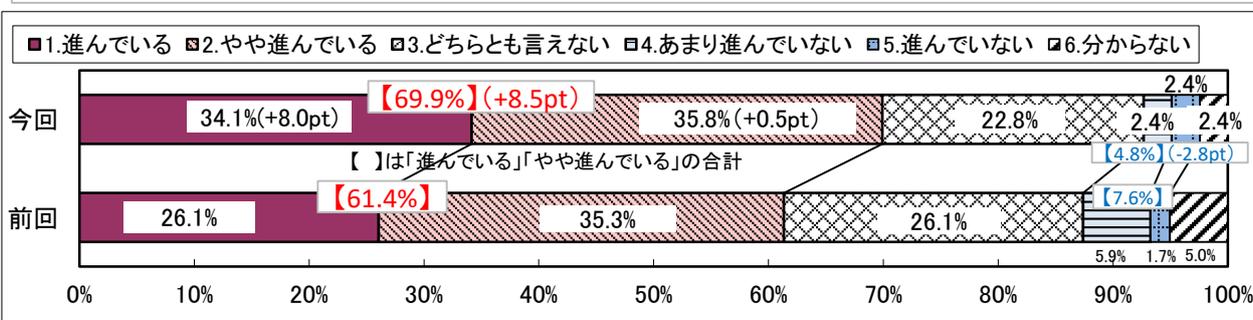


地域別

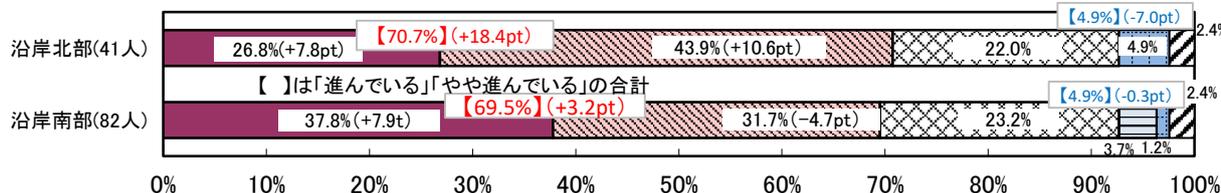


② 直近1年間(おおむねR5年1月からR5年12月まで)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(1年間程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* ()内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆ハード面の整備も完遂したと思われる。今後はそれプラス住民の意識や、訓練のあり方に目を向けていく必要がある。特に有事の際、高齢者対策をどうしていくのが望ましいか懸案事項だと思う。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆震災からようやく町の防災マップが出来上り、少し安心して生活が出来る様になった。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆ハード面は整ったと思うし、学校等での訓練も定期的実施されている。あとは高齢者(特に要援護者)の避難対策を地域住民とともに取り組むことを継続してほしい。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆日本海溝・千島海溝に伴う地震、津波に関するガイドブックが配布された。津波は完全には防げない。避難することが大事である。(60歳以上、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p>
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆市役所や警察署の移転完了に加えて、防潮堤整備も進んでいる。また、浸水区域の周知も図られている。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤や復興道路も完成はしましたが、避難道路他はまだ整備が足りないと思います。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤、水門の整備は完了し、安心感はあるが、今後温暖化により集中豪雨が心配され河川敷の整備が必要と思われます。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆湾口防波堤や防潮堤の復旧、ハザードマップの整備、学校教育を中心とした防災教育等が進められている。災害に強い安全なまちづくりの為に、住民の訓練参加、防災拠点施設としての新市庁舎の早期建設等が求められる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆ハード面での安全なまちづくりは、日々行われていると感じる。市としての取り組みも継続して行われている。ソフト面での安全なまちづくりは、震災を風化させないためにも、私たち住民が意識していかなければならないと思う。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p> <p>◆大雨災害や津波浸水想定を踏まえ、迅速な避難支援の為、個別避難計画の作成にとりかかっている。災害時には要支援者の安全確保ができる様、協力したいと思う。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p> <p>◆ハード面はほぼ完成した。ソフト面でいえば震災の風化による防災に対する意識の低下が心配である。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆大部分の工事は終了しているが、宮古地区では閉伊川水門がまだ完成していない。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤(防波堤)や乗り越し道路、水門や漁港の人工地盤、そして高台への避難路等が完成し、ハード面は充実してきた。一方、避難に関する訓練や方法等については課題があり、地区住民への周知及び定期的な啓発活動が望まれる。また、台風等による災害対策は十分とは云えず、今後不安を抱えている。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆住民の意識を低下させない訓練は継続して行う必要がある。浸水区域に建てた家や商店等、本当に大丈夫かと心配になる時がある。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆対策に絶対はないことから、ハード面だけではなく、ソフト面の強化、特に避難経路や避難場所を確保しての避難訓練など、頻度を上げて行うべき。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p>
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<p>◆防災の話し合い等定期的に話が持たれてるようで、今まで提案されてきた防災対策がブラッシュアップされている。それと病気により身体が不自由になった方や高齢者が確実に増えているので、地域住民としてしっかり把握していかなければならないと実感している。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p>

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3)掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

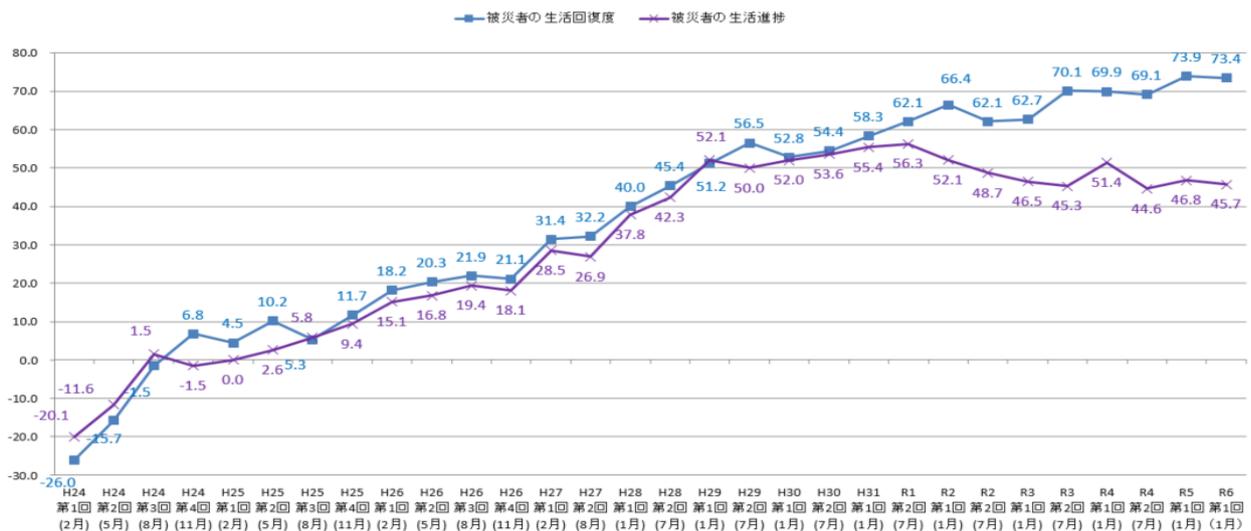
いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

<動向判断指数(DI)>
 掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数 (D I) について時系列にその推移を表わしたものである。動向判断指数 (D I) は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。

$$\text{動向判断指数 (D I)} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

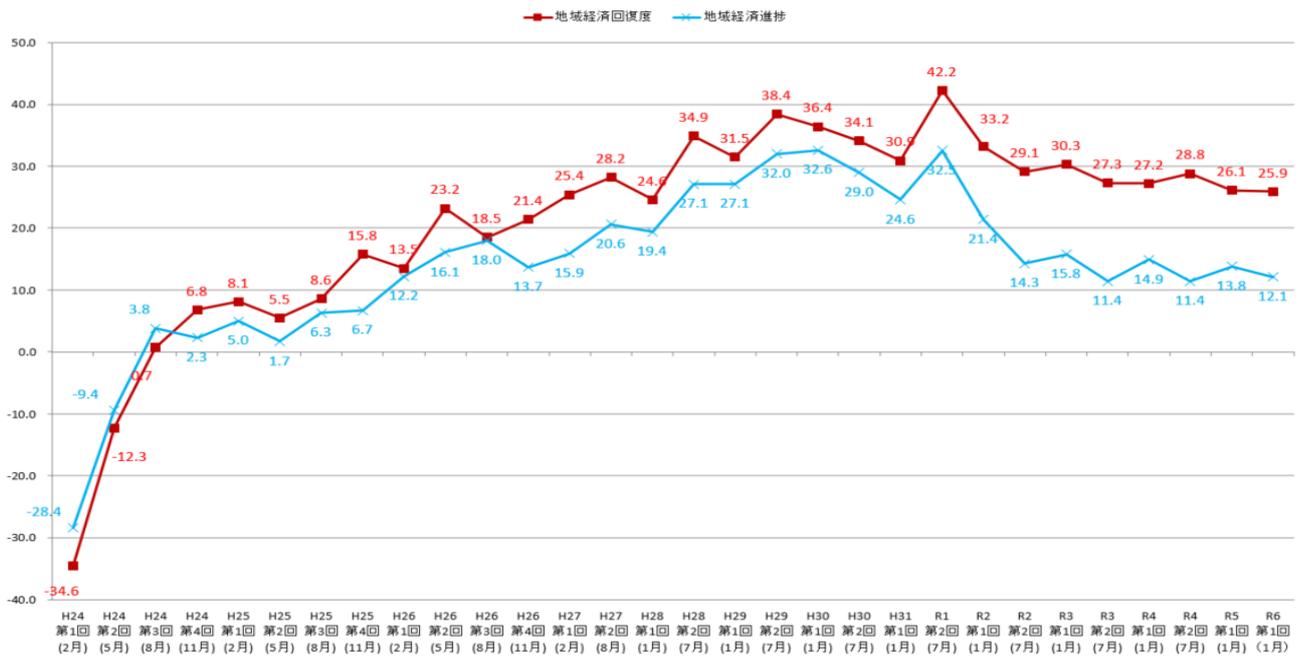
 (注) 100に近づくほど、「回復した」の回答割合が高い。
 (注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



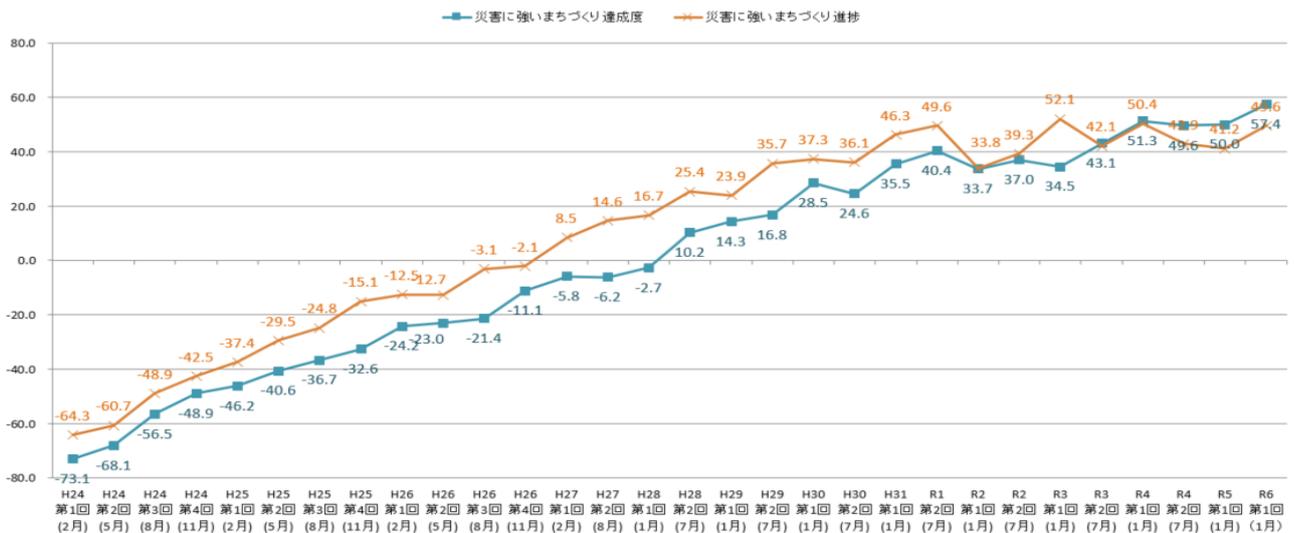
※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月、R5調査以降は直近1年(今回であれば、おおむねR5年1月～R5年12月)を指す。

【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月、R5調査以降は、直近1年(今回であれば、おおむねR5年1月～R5年12月)を指す。

【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月、R5調査以降は直近1年(今回であれば、おおむねR5年1月～R5年12月)を指す。

令和6年「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告

発行

令和6年2月19日

岩手県

復興防災部 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話 019-629-6935

ホームページ：いわて復興ウォッチャー調査について

<https://www.pref.iwate.jp/shinsaifukkou/fukkounougoki/chousa/watcher/1002363>